

教科等研究会（小学校特別活動部会）

平成28年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

ともに生きる力をはぐくむ特別活動のあり方

～学級活動における「分かる・できる・楽しい」授業をめざして～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期 日	人 数	場 所	期 日	場 所	授業者	期 日	場 所	授業者	期 日	場 所	講 師
6月 9日	16名	甲佐 小学校	10月 28日	広安西 小学校	金子 裕美 教諭	11月 8日	矢部 中学校	堤佳 代 教諭	1月 20日	甲佐 中学校	桑野 淳二 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 主題設定の理由

教育をとりまく今日的課題の一つとして、社会や家庭の教育力の低下があげられる。子ども達に基本的な生活習慣や態度が身についていない、他者との関わりが苦手である、自制心や規範意識が十分に育っていないなどが指摘されている。少子高齢化・高度情報化等により、人間関係が希薄になり、社会性が薄れ、自己中心的で生命を軽視する青少年の問題行動も発生している。

「ヒトは、人と人との豊かな関わりの中で豊かな人間性・社会性が備わっていく」ことを考えれば、よりよい集団をめざし、良好な人間関係を育む特別活動の果たす役割は大きい。学校教育の中で、唯一社会性の伸長を図ることを目標にした特別活動は、今後ますます重要視されていかなければならない。社会性を育成していくためには、集団での多様な体験活動が不可欠である。

上益城郡特別活動部会では、自己決定・集団決定したことを「為すことによって学ぶ」ことを主眼とし、「社会性＝ともに生きる力」をはぐくむために、創意工夫した望ましい集団活動の創造によって、子ども一人一人のよさを引き出し伸ばす実践の積み重ねを目指すこととした。

② 主題の分析

(ア) メインテーマについて

「生きる力」（社会において自立的に生きるために必要とされる力）を育てるにあたって、自分に自信が持てず、自らの将来や人間関係に不安を抱えている子ども達の現状を踏まえると、コミュニケーション（意思伝達）や感性・情緒・知的活動の基盤である国語をはじめとした言語の能力の重視や体験活動の充実を図ることにより、子ども達に、他者、社会、自然・環境とのかかわりの中で、これらとともに生きる自分への自信を持たせる必要がある。そのためには、一人一人が自己実現を図り、集団のなかで互いによさを認められ生かされることで、自己肯定力が高まり、自分への自信も高まってくると思われる。

「ともに生きる力」とは、望ましい集団活動を基盤とする特別活動においては、「ともに考え、ともに表現することによって、集団としての考えや表現を生み出す力」である。

具体的には、学級の課題について、子ども同士がお互いの立場を尊重しながら、自分の考えを主張し話し合う中で、課題解決のための目標と具体的な手段・方法を集団決定し、協働して集団活動を創造していく中で培われていく「ともに生きる力」である。「ともに生きる力」を構成する主な能力は、課題発見力・話し合い力・人間関係構築力・問題解決力・規範意識・役割意識である。

新たに作成が進められている新学習指導要領では、「アクティブラーニング」と「授業のユニバーサルデザイン」がキーワードになっている。友達と共に意見を出し合いながら合意形成を図り、意義ある活動を生み出していく特別活動を通して、『ともに生きる』『分かる・できる・楽しい』を追究していくことは、大変意義深いと考える。

(イ) サブテーマについて

学級活動における「分かる・できる・楽しい」授業とは、以下のように捉え研究を進める。

サブテーマの分析	めざす児童の姿	研究の視点
学級会活動における	①話し合いの目的や内容が分かること。	「分かる・できる・楽しい」学級活動

「分かる」とは	②話合いの方法（質問・意見の出し方）が分かること。	
学級活動（学級会）における「できる」とは・・・	学級活動の活動を通して適切な評価活動を行うことにより、自他のよさや達成感を実感し、「できる」という自覚を持つこと	<視覚化> ○合意形成のプロセスを大切にする。（板書の構造化） ○個人と全体の思考の可視化
学級活動（学級会）における「楽しい」とは・・・	①話合いで支持的風土ができていて楽しい。 ②実践活動で一人ひとりのよさが発揮できる話合いだから楽しい。	<焦点化・共有化> ○学級目標、提案理由を意識させる。 ○話し合う内容（話合いの柱）、話し合う目的（提案理由）を明確にする。 ○全員参加型の工夫

※「分かる・できる・楽しい」という一体化された表記から、両者は「分かる・できるから楽しい、楽しいから分かる・できる」という相互関係で研究を進める。

③ 研究の仮説

仮説1＝学級活動（学級会）における「分かる・できる」授業実践を工夫することで、学び合いや高め合いの態度が形成され、「ともに生きる力をはぐくむ」ことができるだろう。

仮説2＝魅力的な議題や、一人一人の意見が大切にされた「楽しい」と思える学級活動（学級会）を展開することで、よりよい人間関係を築くことができ「ともに生きる力をはぐくむ」ことができるだろう。

(2) 成果と課題（○成果・●課題）

○学級目標の実現とつなげる事を意識して提案理由を作成したり、司会のシナリオなど話合いの流れを理解する工夫をしたりすることにより、クラスみんなにとってよりよい活動になるようにという雰囲気が醸成され、共に学び合い、高め合う姿が見られた。

○話合いにおいて全員に意見を書かせ、話合いの自己評価や相互評価の時間を確保したことにより、児童はお互いのよさを感じ取り、役割を達成したことに自信を持ち活動をする事ができた。

●話合いの柱に応じた意見の集約の仕方や議決にいたるプロセスではまだ迷う部分が多かった。今後の研究課題としたい。

●話合い後や活動後の自己評価や相互評価の項目は、さらに工夫を重ね、より児童がお互いのよさを感じ取り、人間関係を深めていくものにするよう工夫する必要がある。

4 実践事例（広安西小学校 5年2組 36名 指導者 金子裕美教諭）

(1) 授業の概要

児童の実態	○学級会を好意的に捉えている子どもが多いが、進んで自分の考えを発表することに抵抗感をもつ子どももいる。 ○学級目標「元気で 助け合い きずな深める5年2組」については、ほとんどの子どもが『元気』は達成しているが、『助け合い』や『きずなを深める』は達成していない」と考えている。また、学級全体としては達成に近づいているが、自分自身は達成に近づいていないとして、自分に対して厳しく評価する子どもが多い傾向にある。 ○hyper-QU テストの結果では、学級のルールや行動規範がほとんどの子どもたちに共有されていると考えられるが、承認得点には差がみられ、学級内で認められていて意欲的に活動できている子どもと、そうでない子どもとが明確に分かれていると考えられ、「かたさのある学級」として判定されている。
本時の研究の視点	<計画> ○子どもたちがやりたいと思えるような、議題を精選し提案することで、活動への意欲を高める。 ○活動の日時や場所、どんな活動をするかを事前に決めて知らせておくことで、活動のイメージや具体的なアイディアをもたせて話合いに臨ませるようにする。 ○事前に子どもたちの意見を把握し、励ましておくことで、自信を持って発表できるようにする。 ○事前に計画委員と十分な打ち合わせや練習をすることで、スムーズな司会進行ができるようにする。 <話合い活動>

	○計画委員には「話し合いカード」を用意することで、見通しを持った話し合い活動ができるようにする。また、話し合いが滞った時には必要に応じて進め方のアドバイスをを行い、話し合いがスムーズにいくようにする。 ○自分の考えや友だちの考えを大切にできる学級会にするために、意見の内容を吟味していく場面では、賛成や反対の理由を明確にするようにする。また、少数意見も大切にすることができるよう、折り合いをつけたり、活かしたりする方法がないかを考えるように促す。 ○「シンキングタイム」をとることで、一人で考える時間や少人数で考える時間を確保し、全ての児童の発言の機会を保障できるようにする。 ＜実践活動＞ ○準備する時間を明確にしたり、時間の確保を十分に行ったりすることで、見通しをもった自主的な活動を促す。 ○自分の役割を自覚化させ、役割意識や所属感を高められるようにする。 ○活動が停滞している場合は機会を捉えてアドバイスをを行い、多くの子どもが達成感を味わえるようにする。 ＜振り返り＞ ○自己評価や相互評価を行うことで、自分の頑張りと互いのよさに気づき、自分の成長につなげたり、集団の一員として役割を果たすことの大切さを感じたりできるようにする。 ○教師による評価を行うことで、一人ひとりに自信をもたせ、今後の教育活動の中に活かすことができるようにする。
授業者自評	○議題の選定、提案理由を計画委員会で検討する際に、絶えず学級目標と関連させるようにした。 ○学級会の司会の仕方や話し合いの進め方など、クラスで話し合いを重ねるにつれ、児童は自信を持って話し合いに臨む事ができた。 ○ハロウィンパーティを議題として取り上げることになり、内容、方法等決めるべき事がたくさんあった。そこで、クラスの課題である『助け合い』『きずなを深める』を深めるためには「どうやってチーム分けをするか」という点を話し合いで決めることがよりよいクラス作りにつながると考えた。 ○今日の授業では、一人一人が自分の考えを言うことができた。その発言の中に学級目標を意識した発言もあり、今まで大切な視点として児童に投げかけていた「学級目標の実現」という意識が高まっていた。 ○発言の声の大きさには個人差があり、今後様々な機会に指導していきたい。
協議の内容	○計画委員会が、ハロウィンパーティのお化け屋敷のイメージ図を児童に示したり、活動の際のきまりなどを前もって掲示していたので、児童が話し合うべき点が焦点化されていた。 ○児童がクラス目標に向かっていきいきとした意見を言っていた。 ○板書に掲示されていたカード（児童の意見）に番号を打つと、意見を言うとき言いやすいのではないかと感じた。
まとめ 七滝中央小 大竹紳一郎 校長先生	○学級目標に向かって前向きな発言が見られた話し合いであり、有意義な研究授業であった。前向きな意見が言えるのは、普段の学級経営でちゃんと指導と評価がなされているからである。 ○「話したいときに話すのではなく、話さなければならないときにきちんと話すことができる。」という児童を育てる事を意識すべきである。声の小さい児童には、声が小さいことは相手に対して失礼であることを教え、日頃から指導を積み重ねていくとよい。 ○話し合いの中で、友達の意見を聴いて自分の考えを変えた児童がいたが、その児童を担当の先生が取り上げ評価したことはとてもよかった。今後、「みんなの意見が違うのがおもしろい」という意識が高まっていくだろう。

(2) 学習指導案

目標：学級目標や提案理由を意識し、自分の考えを発表したり、友達のよいところを取り入れたりしながら、集団決定を行う事ができる。				
議題：「みんなで楽しめるハロウィンパーティにしよう！」				
提案理由：最近昼休みのレクリエーションなどでなかなかみんなで集まれているので、みんなで遊べる会をしたいから。また、運動会や集団宿泊教室で「協力」や「きずなを深める」という点で反省点が見つかったため、5の2みんなで協力してきずなを深め、楽しむハロウィンパーティをしたいから。				
過程	学習活動	時間	児童の活動	発問・指示及び教師の支援と評価
みとおす	1 はじめの言葉 2 役割の紹介 3 議題と提案理由の確認 4 先生の話 5 めあての確認 6 話合いの柱の説明	5分	・今日の議題は～です。提案理由の確認です。提案者の～さんお願いします。 ・話合いの柱は①グループ分けについてと②おばけ屋敷についてです。	・計画委員で決めていることを再確認して、話し合う部分を明確に捉えるようにする。 徹底指導 (ポイント) ◎話合いの視点の提示により、提案理由に沿った話合い活動をさせる。
考える・伝える・学ぶ	7 話合い 【言語活動】 (設定の意図) 提案理由をキーワード化した話合いの視点をもとに、折り合いを意識しながら集団決定することができる。 計画委員会で決めていること ・活動日は11月4日。 ・準備期間は10月31日から11月3日の1週間。 ・会順(はじめの言葉・おばけ屋敷・ジェスチャーゲーム・終わりの言葉)	35分	A基準の例「集団の一員としての思考・判断・実践」(発表) ○実践するときのことも考えて、提案理由や学級目標にそった理由を考え、賛成や反対意見を発表している。	
			B基準「集団の一員としての思考・判断・実践」(発表) ○提案理由や学級目標に沿った理由を考え、賛成や反対意見を発表している。	
			B基準に達しない児童への手立て シンキングタイムに机間指導で、提案理由のキーワードを示し考えさせる。	
			<予想される意見> 小柱① ○好きな人同士でグループを作る。○くじでグループ分けする。 ○男女混合のグループにする。○あまり話さない人と同じグループになる。 小柱② ○こわい音楽を流す。○迷路を複雑にする。○スライムや人形を使う。	
たしかめる	8 決まったことの発表 9 話合いの反省 10 先生の話 11 おわりの言葉	5分	・「シンキングタイム」をとります。出された意見について、提案理由に沿っているかななどを近くの人とじっくり話し合ってください。	能動型学習指導 (ポイント) ◎話合いカードを使い、児童の主体的な話合い活動ができるようにする。
			・今日決まったことは～です。 ・今日の話合いの反省をしてください。 ・先生のお話です。 ・これで学級会を終わります。	・全員に話合いの賞賛と実践への励ましをして、実践活動に向けて意欲を持たせるようにする。 ・振り返りを行い、お互いのよさを味わわせる ・これからの活動の計画を確認する。

